



仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の明るく元気な情報を発信！～

令和2年度第4号(通算第65号)
令和2年10月30日発行-隔月発行-
【発行】宮城県仙台地方振興事務所

● 今月号の元気な話題 ●

地振	「家たび&ドライブスタンプラリーIN くらかわ」を開催中です 【地方振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
農整	仙台市立大沢小学校で稲刈り体験会が開催されました 【農業農村整備部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
林振	秋保ヴィレッジで原木しいたけ PR イベントを開催しました 【林業振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
水漁	「三陸塩竈ひがしもの」販売開始式が開催されました 【水産漁港部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
水漁	塩竈市の小学生がホシガレイの稚魚を放流しました 【水産漁港部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
農振	大衡村の宿根カスミソウなど県内の花を展示 PR・魅力を発信しました 【農業振興部（仙台農業改良普及センター）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
亘理	亘理地域「仙台いちご」の出荷が始まりました 【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
畜振	塩竈市の小中学校で「仙台黒毛和牛」の給食が提供されました 【仙台家畜保健衛生所（畜産振興部）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

「家たび&ドライブスタンプラリーIN くらかわ」を開催中です

▶地方振興部

当所では、黒川地域（富谷市・大和町・大郷町・大衡村）において、2種類のデジタルスタンプラリーを開催しています。お出かけ時に対象のスポットを巡り、GPS機能を利用してスタンプを集める「ドライブスタンプラリー」と、おうちにいながらスタンプラリーが楽しめる「家たびスタンプラリー」、2つのスタンプラリーで豊かな自然や旬の食材をお楽しみいただけます。また、条件を満たすと、抽選でお食事券や地場産品等のプレゼントが当たります。

参加登録は以下に掲載のQRコードからアクセスできる特設サイトで行えます。

ぜひ、黒川地域の魅力をお楽しみください！

**家たび&ドライブ
スタンプラリー
IN くらかわ**

スタンプ獲得・プレゼント応募期間
9/15 ▶ 12/13

スマートフォンがあれば
誰でも簡単に参加できる！

おうちにいながら
ホームページを巡る
「家たびスタンプラリー」

車でお出かけのときに
対象スポットを巡る
「ドライブスタンプラリー」

上記のQRコードから
スタンプラリーに参加して、
お食事券や特産品を
ゲットしよう！

仙台市立大沢小学校で稲刈り体験会が開催されました

▶農業農村整備部

10月13日（火）に、仙台市立大沢小学校の学童農園田（面積600a）において、5学年児童40名が稲刈り作業を体験しました。今回の体験会は仙台市大倉川土地改良区が21世紀創造運動の「総合的な学習の地域活動」として行ったもので、子供達が稲刈り体験を通じて、農業農村の恵みを学ぶために開催されました。本来であれば5月に田植え体験を行った後に稲刈り体験を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で田植え体験は行えず、今回の稲刈り体験のみの開催となりました。

体験会には多面的機能支払交付金（※）の活動組織である「原・下地域保全連絡会」も地域活動の一環として参加し、児童達との交流を深めました。

当日は晴れていましたが前日までの天候が悪く、田んぼは足下がとてもぬかるんだ状況で、中には転んでしまい泥まみれになった児童もいました。児童は終始元気いっぱい活動し、約1時間で稲を全て刈ることができました。

新型コロナウイルスの影響で、毎年行っていた体験会等の開催が難しい状況ですが、当部はこれからも地域活動の支援を行い、農業農村の維持・発展を推進していきます。

※多面的機能支払交付金とは：草刈り等の営農への共同活動を行う地域組織に対して交付金の支援を行い、農業農村の多面的機能の維持・発揮と担い手の育成等を後押しするもの。

【参考】宮城県多面的機能支払推進協議会のホームページ（<http://www.nmk-miyagi.org/>）



▲事前説明を受ける様子



▲稲刈りの様子

秋保ヴィレッジで原木しいたけPRイベントを開催しました

▶林業振興部

東日本大震災の原発事故による風評被害を払拭し、原木しいたけの需要拡大を図るため、仙台市原木しいたけ生産推進協議会と連携し、10月25日（日）に仙台市太白区の秋保ヴィレッジにおいて原木しいたけのPRイベントを開催しました。イベントでは、生産者らによる原木しいたけの試食販売を行ったほか、一般の来場者を対象に原木しいたけの植菌体験会を行いました。植菌体験では、しいたけの種駒を1人1本ずつ原木に木槌で打ち込んでもらい、自ら植菌した原木と、すぐにしいたけが発生する原木をセットでプレゼントし、自宅でしいたけ栽培を楽しんでもらうことにしました。

今回は新型コロナウイルスの感染に配慮しながらの開催となりましたが、多くの県民に原木しいたけの栽培や安全性について理解してもらうとともに、原木ならではの美味しさを実感してもらうことができました。

11月14日（土）には大和町のヤマザワ社のまち店において同様のPRイベントを開催しますので、みなさん是非お越しください。



▲木槌の音がこだました植菌体験会

「三陸塩竈ひがしもの」販売開始式が開催されました

▶水産漁港部

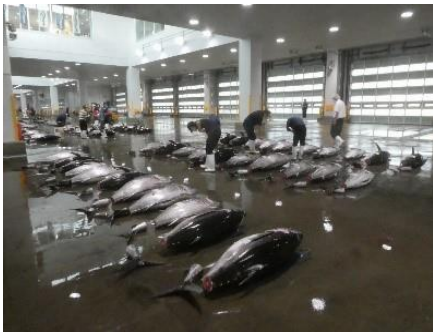
塩釜市水産振興協議会が主体となってブランド化を進めている「三陸塩竈ひがしもの」の販売開始式が9月17日（木）に塩竈市魚市場で行われました。

「三陸塩竈ひがしもの」とは、塩竈市魚市場の水揚げの主力である生の「メバチマグロ」のうち、漁場や漁法、漁獲期間に関する要件を満たし、なおかつ「鮮度」「色つや」「脂のり」等について塩竈の目利き（仲買人）の目になかったマグロが認定されるものです。

販売開始式では、まぐろ延縄（はえなわ）船5隻により水揚げされた189本のメバチマグロのうち、「三陸塩竈ひがしもの」として認定された40本が関係者に見送られながら仙台中央卸売市場や豊洲市場に出荷されました。

式典終了後には、水揚げされたばかりのメバチマグロを地元の寿司職人らが握り寿司にして出席者に振る舞われ、極上のマグロを味わっていました。

「三陸塩竈ひがしもの」は12月まで出荷され、塩竈仲卸市場などで販売されるほか、塩竈市内の11寿司店で11月末まで味わえます。



▲目利き中



▲「ひがしもの」出荷の見送り



▲「ひがしもの」の握り寿司

塩竈市の小学生がホシガレイの稚魚を放流しました

▶水産漁港部

10月9日（金）に塩竈市魚市場で、塩竈市立玉川小学校5年生による全国豊かな海づくり大会記念リレー放流が行われました。

「全国豊かな海づくり大会」は、魚食普及や水産資源の保護・管理の大切さを国民に周知するとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて、漁業の振興や発展を図ることを目的として、昭和56年に第1回大会が大分県で開催されて以来、毎年各都道府県で開催されています。当初、宮城県では令和2年度に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度に開催されることとなりました。

県では、大会開催に向けた機運醸成及び水産資源の保護に関する教育活動の一環として、園児・児童等による大会記念リレー放流を令和元年度から実施しており、今回で16回目となります。

今回は、玉川小学校の5年生41名が、船上からホシガレイ稚魚1,000尾を放流しました。初めて船に乗る児童が多く、たくさんの笑顔を見ることができました。また、児童の水産に対する興味や関心を深めることができました。



▲ホシガレイに関するミニ講座



▲児童による船上からのホシガレイ放流

大衡村の宿根カスミソウなど県内の花を展示PR・魅力を発信しました

▶農業振興部（仙台農業改良普及センター）



▲10月13日（火）のロビー展示の様子

仙台農業改良普及センターでは、宮城県仙台合同庁舎において、10月6日（火）から10月30日（金）までの間に、県内の花の展示を行い、県産花きの魅力をPRしました。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大によりイベントや冠婚葬祭における花の消費量が減り、生産地をはじめとした花き業界全体が大きな影響を受けたことから、宮城県花と緑普及促進協議会が、農林水産省の「公共施設等における花きの活用拡大支援事業」を活用し、各地域で花の展示を行ったものです。当地域では、大衡村の宿根カスミソウや大郷町と多賀城市のバラなどを週替わりで展示したほか、庁内職員を対象に宿根カスミソウの花束の応援販売も行いました。

宿根カスミソウは大衡村が県内一の産地であり、長く楽しめる白くてかわいい花で、6月と10月が出荷のピークとなります。高齢化により栽培者は減少傾向にありますが、若い生産者が産地を維持しようと意欲を示しており、当センターでも産地の維持と後継者育成を引き続き支援していきたいと考えています。

直売所等でも販売されていますので、見かけたら是非購入してみてください。

亘理地域「仙台いちご」の出荷が始まりました

▶農業振興部（亘理農業改良普及センター）



▲初出荷のいちごと生産者の菊地さん

秋本番を迎え、今年も10月19日（月）にJAみやぎ亘理の「仙台いちご」が初出荷されました。

出荷した生産者は山元町の菊地さんで、品種は「とちおとめ」でした。当日は初荷を祝うJAみやぎ亘理組合長、部会長、全農みやぎの担当職員等関係者10名ほどが集まって、赤く色づいたいちごがお披露目されたあと、仙台市場に向けて出荷されました。生産者は「今年は夏が暑く、毎日のかん水や受粉の管理が難しかった。」とこれまでの苦労を振り返っていました。また、コロナ禍の中で、いちごの管理に集中したことで、美味しいいちごになりました。

初出荷されたいちごは24パックで、今後の期待を込めて最も高い規格（3L）で1パック10,000円の高値で取引されました。これから11月にかけて「にこにこベリー」、「もういっこ」も順次出荷される予定です。

当センターではJA、関係機関と協力し、販売額30億円に向けて、技術支援をしていきます。

塩竈市の小中学校で「仙台黒毛和牛」の給食が提供されました

▶仙台家畜保健衛生所（畜産振興部）

塩竈市の小中学校 12 校で 7 月 1・2 日の両日、宮城県産「仙台黒毛和牛」(*) を使用した給食が提供されました。

塩竈市立第三小学校ではすき焼きとして振る舞われ、子どもたちは「美味しいっ！こんな美味しい給食食べたことない！」と大喜び。われ先にとおかわりに走っていました。また、給食の前には県職員から県産牛肉についての講話を行い、仙台牛をはじめとした県産牛肉の美味しさの秘密を学んでもらいました。塩竈市の小中学校では今回と 9 月に続き、12 月にも県産牛肉の提供が行われます。



学校給食での牛肉の提供は、県産牛肉の消費拡大や、子どもたちに県産食材への理解を深めてもらうことを目的に県事業として実施しました。県産牛肉は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、インバウンドや外食需要が減少し、取引価格も大幅に下落しています。宮城県は消費地であるとともに、肉用牛の飼養頭数も全国第 6 位であり、その経済に及ぼす影響は小さくありません。

県産牛肉の学校給食への提供事業は、塩竈市を皮切りに県内全域で行います（一部の学校は除きます）。この取組により、県産牛肉の生産・流通への影響緩和はもとより、県内には素晴らしい食材があることを知り、将来の消費拡大につながることを期待しています。

▲塩竈市立第三小学校で振る舞われた「仙台黒毛和牛のすき焼き」

※仙台牛と仙台黒毛和牛

仙台牛生産登録農家によって宮城県内で肥育された黒毛和種で、個体に合った適正管理を行い、肉質等級が最高ランクの 5 等級に格付けされた牛肉だけが「仙台牛」の称号を得ることができます。有名銘柄牛の中でも 5 等級に限定しているものは他になく、最高級品であることがわかります。

「仙台黒毛和牛」は、仙台牛と同じ育て方をしていますが、肉質等級がその下のランクに格付けされた牛肉です。霜降りは仙台牛に劣るものの、全国の他のブランド牛と比較しても見劣りのない高品質な牛肉です。

詳しくは宮城県農政部畜産課ホームページをご覧ください。

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tikusanka/sendaiigyuu.html>)



▲給食の様子（塩竈市政策課提供）



▲とても美味しかったです！（塩竈市政策課提供）

宮城県新型コロナウイルス感染症対策サイト ▶▶▶

[<https://www.pref.miyagi.jp/site/covid-19/>]



問合せ先：宮城県仙台地方振興事務所地方振興部（担当：首藤）

TEL：022-275-9140

FAX：022-275-0296

E-Mail：sdsinbk2@pref.miyagi.lg.jp

※次号は令和 2 年 1 2 月下旬発行予定です。